

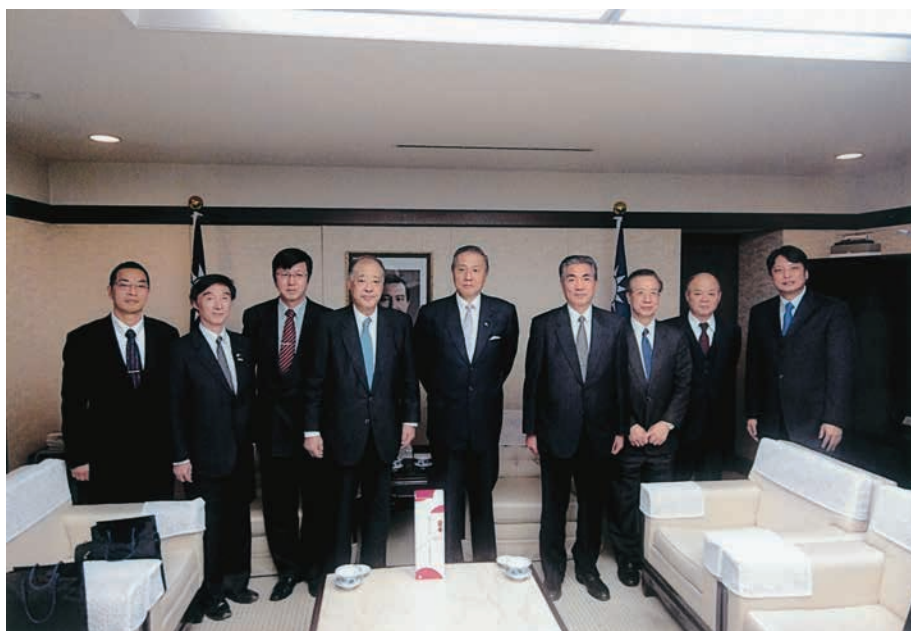
平成24年

季刊

夏季号

Vol.40

亜東



台北駐日経済文化代表處にて



社団法人亜東親善協会

The East Asian Friendship Association

社団法人 亜東親善協会の概要

名称 社団法人 亜東親善協会

(英文名 The East Asian Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七―五 砂防会館四階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに我が国とアジア諸国との

経済、文化の提携、交流を通じ、友好親善の増進を図る。

事業

① 我が国とアジア地域諸国との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 我が国とアジア地域諸国との文化、芸術の相互の紹介

③ 我が国とアジア地域諸国との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋

④ 我が国に在住するアジア地域諸国民の生活相談

⑤ アジア地域諸国からの在日留学生にたいする進学の斡旋

⑥ その他本会の目的を達成するために必要な事業

季刊「亜東」平成二十四年 新春号

亜東親善協会の概要・目次
日本列島・台湾の

戦略的地位が高まる年

二〇一二年 元旦祝辞

新年挨拶

池田偵一郎副会長を偲ぶ

池田先生追悼のことば

太平洋戦争の想いで

留学生・国会議員顧問交流会

中華民国外交資料特別展

平成二十四年 新春号名刺広告

顧問・関係団体・役員名簿

お知らせ 編集後記

二頁

会長 玉澤徳一郎 三頁

馮 寄台 閣下 五頁

副会長 大江康弘 七頁

監事 莊司隆一 九頁

副会長 張 建國 一〇頁

故 池田偵一郎 一〇頁

事務局 一二頁

事務局 一三頁

平成二十四年 新春号名刺広告 一四頁

顧問・関係団体・役員名簿 一八頁

お知らせ 編集後記 一九頁

日本列島・台湾の

戦略的地位が高まる年

玉澤徳一郎

新しい年を迎えて会員の皆様の御健勝を謹んでお祈り申し上げます。

昨年は、東日本大震災が起り、悲しい想いを致しましたが、米国、台湾をはじめ各国からの御支援と国内の多くの人々の御支援をいただき、元氣よく立ち上がることができました。被災地より感謝御礼を申し上げます。誠にありがとうございます。

新しく迎える本年は、日本にとっても、アジアにとっても大きな課題を抱えた年になると考えます。

安全保障の観点から云えば、中国の動向です。昨年は、中国が発信元と思われるサイバーテロが相当の被害を各方面に与えました。

また、中国の軍事力の拡大は、全く止むことなく、とくに海軍力の増強は、眼を見張るものがある。航空母艦の建造をはじめ、航空機、宇宙兵器の拡大をはじめ各兵科にわたって増強が見られました。その先にあるものは何かというと、領土と経済水域の拡大である。中国の領土法の考え方は、かつて大中華帝国に朝貢していた国は、全部中国の領土というにある、この解釈でゆくと、ベトナム、朝鮮半島、台湾、沖縄（琉球）、モンゴル、ロシアのウラル山脈から東のカムチャツカ半島、沿海州まで含まれる。

昨年はブータン国王夫妻が来日されたが、ブータンの領土の一八%がすでに中国に浸食されていることが明らかにされた。

今日までの中国の所業をみると海上においては、ベトナムと西沙諸島をめぐる衝突しこれを

力づくで奪い、フィリピン、インドネシア、マレーシアとは南沙群島（スプラトリー諸島）をめぐる、対立が続いている。この中には中国がすでに多くの島を占有し、基地化している島もあるといわれている。

海洋法二百カイリによつて、島の領有権が認められれば、そこから二百カイリ四方を経済水域として設定することができて、海底資源を含めて開発ができる権利が生ずる。

わが国の尖閣列島も国連のエクアフェが、海底に油田がある可能性を指摘してから中国の尖閣領有権の主張が始まっている。

昨年は、中国は、南シナ海、東シナ海の海域の自由航行権まで、支配するような態度に出たことによつて、（制海権を握りこの海域の資源の独占することを意味する）ついにアメリカも、アセアン諸国を支援し、中国を牽制せざるを得なくなり、軸足

をアジアにもどすことを宣言した。これは画期的なことであると評価する。

中国が、日本列島から台湾、フィリピンの線を第一列島線、日本の伊豆諸島、小笠原諸島からガム、オーストラリアにいたる点を第二列島線と位置づけて、これを破つてゆくことを戦略目標としているが、その意味するところは、アメリカと太平洋をめぐる覇権争いをすることを意味する。

中国はかつてソ連の核攻撃の脅威におびえていたとき、米国のニクソン大統領によつて助けられ国交回復した。

その恩を忘れて、中国は、日本、ソ連に次いで第三の挑戦者（太平洋をめぐる）になった。

アメリカは北部オーストラリアに海兵隊の基地をおくと声明し、中国と明確に対峙する姿勢

を示した。米国が中国と対峙する上で懸念されるのは、対中経済的犠牲をこうむることも覚悟せざるを得なくなる。

TPP構想がここから出てきていることを戦略的に理解した上で、日本は食糧安全保障をいかに確保するかが、原則自由化・例外を認めないという原則をかん和することが各国の団結につながることを訴えたい。そうなれば台湾もTPPに参加する途が開かれるであろう。

ここまで書いてきて、私は、歴史的に二つの事案が相似していることに気付いた。

一つは、現在中国がとっている覇権主義は政治の主導権を軍部が握り、自国の利益を追求するあまり、国際協調を欠き、国際ルールを無視して戦争に突入していった日本の姿に似ているということである。

日露戦争で、英国とは同盟を組んで応援してもらい、米国には講和をあつせんしてもらいながら、長期に戦争が続けば絶対に勝てなかった日露戦争に勝利し、満鉄・満州の利権を独占して米国の提案（投資）を拒否し続け、軍部による満州事変を起して、国際連盟から脱退し、さらに北支を支配下に収めようとして中国の反発を受け日中戦争に引きずりこまれ、さらに上海に上陸し、南京まで侵出することによって、英軍の利権を圧迫したため英米を中国の味方においやり、そのあげく太平洋戦争に突入してゆき、悲惨な敗北をこうむった。

一時的に軍事的勝利を得ても、退くことを知らない政戦略のなさ、当時の一撃論にみられるように政戦略を無視した軍略一本やりの姿は、現在の軍部にひきづられて冒険主義に走っている中国の姿に似ている。

そこで私があえて中国に忠告するならば、軍部の主導によってなされた「日本の愚と轍を踏むなかれ」と申上げたい。

もう一つの歴史的相似を求めらるならば、戦後の国共内戦で敗れて台湾に依拠して、大陸反抗をとねえた蒋介石統領を米国は、全く見捨てた態度に出た。

孤立無援の蔣総統のため応援を買って出たのは旧日本軍の将師達であった根本博將軍は蔣總統のとつた以德報怨の政策に感謝して台湾に渡り金門島の防衛のため大きな功績を上げたことは、今日になって漸く明らかにされた。

その他、国民党軍の改革のため、白（パイ）団と呼ばれる軍事顧問団が台湾に招聘された。軍事改革に貢献した。

しかし、国際情勢が急激に変化したことにより、米国が台湾の戦略的価値を見直したことで

ある。つまり朝鮮戦争が、勃発したのである。一九五〇年六月にことである。米国は台湾に軍事顧問を派遣して日本の顧問団に代わったことになった。

しかし、私が最初に台湾を訪ねたのは一九六二年であるが、一部の方々はそこで活動されていた。

二年前に国防大学を訪問する機会を得たが、そこでは、当時使用していた教科書もみせていただいた。案内していただいた副校長先生は、「孫子」の解釈でも日本軍の説明がよくわかると説明していただいたことを想い出す。

さて、五年程前のことになるが、米国に防衛交流にでかけたときのことであるが、ある防衛関係高官を辞めた人と出会ったときのことであるが、彼が「貴君達は台湾と親しくやっているようであるが、米国は今後は台湾を守ることはしないよ。日本

は守るが台湾を守ることはない」と云われて衝撃をうけたことがある。

その後、数日間、私は彼の云った真意を確かめるべく、色々な方に会って質問したのだが、ある人の一言で氷解した。「彼は退官後中国から沢山仕事をもらっている」という一言であった。中国の工作のすごさを改めて知ったことである。

しかし、今日、台湾は、米国の戦略見直しで、再び、その戦略的価値が見直されていると考える。

山東省の青島軍港から出港する潜水艦は、太平洋に出るには、中国の称する第一列島線の日本列島のせまい海峡か、海底の浅い台湾海峡を通じて、パシフィック海峽を抜けて太平洋に出なければならない。

いづれも、捕捉は不可能ではない。もう一つの中国の海軍基

地は、海南島にあり、南シナ海、インド洋に向けられている。

これに対しては、オーストラリア、インドを含め、アセアン諸国が米国と協力して対応するであろう。

中国が、あくまでも、資源の独占を求めて行動するならば、国際的孤立あるのみである。

いづれのケースでも、日本列島と台湾の戦略的価値が格段と高まったことは言うまでもない。

したがって日本の南西諸島と台湾がもし、中国の支配下におちいった場合は、劇的な地理的に戦略的変換を意味する。

日本は、すでに潜水艦二隻の建造を決め、与那国島に陸上兵力を常駐させようと準備中である。

対中国の安全保障の充実は、日米安保体制の強化と共に、本年の最大の課題であることを強調して稿を終りたい。

2012年元旦祝辞



台北駐日經濟文化代表處

代表 馮 寄台 閣下

亜東親善協会の皆様、謹んで新年のお祝いを申し上げます。

今から一〇〇年前、辛亥革命が成功し、一九二二年一月一日に中華民国が樹立されました。今年の元旦は、中華民国建国からちょうど一〇〇周年にあたります。

昨年は日本でも各界による文化、

スポーツ、講演会、シンポジウム等、さまざまなイベントが盛大に開催され、お祝いムードに包まれました。

兩岸の和解により、日本を含めて、世界各国と台湾との関係が徐々に改善されました。

最も顕著な例は各国の台湾に対するノービザ措置でございま

すが、馬總統の就任から僅か三年間で欧州連合（ＥＵ）を含む七〇カ国・地域が新たに加わり、現在全世界ですでに一二四カ国・地域が台湾にノービザ措置を付与しており、アメリカも来年付与する計画となりました。

国際協力の中でも、馬總統が就任後、二〇〇九年に初めて世界保健機関（ＷＨＯ）の年次総会に、オブザーバーとして参加しました。

また、原子力エネルギーの安全の強化のため、国際原子力機関（ＩＡＥＡ）に参加する必要があり、さらに地球環境保護分野における国際貢献を果たすため、国連気候変動枠組条約（ＵＮＦＣＣＣ）の参加も切望しています。

昨年、最も衝撃を受けたのは、

東日本大震災でした。この震災で、日本は未曾有の被害を蒙り、われわれ台湾人も、馬英九總統から小学生に至るまで、日本人々が受けた痛みと悲しみを共に感じました。

馬總統は夫婦でチャリティー番組に出演し、日本への支援を呼びかけ、四時間にわたって義援金の申込電話を受けました。

また、台湾では自発的に日本への義援金等の支援が始まり、台湾と日本の緊密な「絆」が改めて確認されました。

震災からわずか二週間後であるにもかかわらず、故宮博物院の文物を日本で展示できるようにするための「海外美術品等公開促進法」が日本の国会で可決されました。

また、七月に台日間で東日本大震災からの復興支援・観光交流の促進等に関する台日「『絆』イニシアティブ」を共同発表しました。

さらに九月に、これまで十数年にわたって交渉が続けてきた「台日投資協定」が、一月には「台日航空協定」が結ばれました。これにより、これまでの東京・大阪など九都市との定期路線の他に、今年、台湾から石垣島、鹿児島、静岡、富山、函館、旭川、帯広、釧路などへ新たな定期路線が開設される予定です。

これらは両国の投資・貿易・観光の促進に寄与するものであり、台日関係の一層の緊密化が期待されます。

当代表処は、昨年五月に、日本のニールセン社に委託して、日本人の台湾に関するアンケート調査を行いました。その結果、日本人の九一％は日台関係が良好であると考え、八四％が台湾を信頼しており、六七％が台湾を身近に感じていることがわかりました。

台湾にある日本の代表機関「交流協会」も台北で、それと似た世論調査を実施しました。その結果、台湾人は日本を最も好きな国であると答え、最も信頼する国、および旅行に行きたい国も日本でした。

最後に、台湾の政府及び国民を代表し、東日本大震災からの一日も早い復興、並びに亜東親善協会の皆様のご健勝とご多幸を祈念し、新春の挨拶とさせていただきます。

新年挨拶

社団法人亜東親善協会副会長

参議院議員 大江康弘

良い年を迎えられましたでしょうか。

昨年も当協会に対し皆様の大なご尽力、ご協力を賜りまして、日・台友好親善の実績が残せましたことに、改めて感謝と御礼を申し上げます。

冒頭に「おめでとうございます」と申し上げなかったのは、大震災、台風十二号の災害で犠牲になられた方が多く、未だ行方不明の方もあり、とてもそんな気持ちになれないのが実感です。行方不明者の方の一日も早い発見と被災地の早期復興に向けて、皆さんと一緒に頑張つて参りたいと思います。

この「新年号」を目にされる頃には、次期台湾総統も決まっ

ていることと思います。

私はかねがね申し上げているように、「台湾の事は台湾国民の皆さんがしっかりと決める事」であり、最終的に台湾国民の皆さんが出した結果を尊重しながら私共が、世界の国の中で最も信頼と友情を感じている、台湾と価値観を共有しながら力を合わせ、どう歩んでいくかであると思っています。

昨年は辛亥革命百年、中華民国建国百年という大きな節目を迎えられ、国内外に民主国家台湾の安定した発展を印象付けたと思っています。同時に台湾国民の愛情と友情の深さを我々日本人は、あの震災後において改めて実感をさせられました。この事は今後の両国の友好関係の更なる構築のきっかけになったと思います。

さて、昨年末の北朝鮮独裁者金正日の死去の報は、この北東

アジアにおいて新たな緊張感を生み出す要因となりました。

世界のどの国家を眺めてもトップが三代世襲という国は見当たりません。唯、政治家本人だけみれば我が国は三代目、四代目は沢山あつて驚きませんが、中東各国で民主化が進み独裁者が次々と民衆の離反にあつて追われていく中、三代世襲は異常であります。

この背景には、新たな冷戦構造の再発といわれている米・中の思惑(朝鮮半島においては危機に繋がるような極端な変化は望まない)があり、又、反日へと転化している韓国や、大統領選を控え国内が不安定なプーチン・ロシアの思惑等々、日本を取り巻く環境は日毎に厳しくなつて行っているのが現状です。

我が国も政権交代以来約二年半、危機管理のできない現民主

党政権の国益を損なう政権運営は、諸外国に足元を見透かされまともな交渉ができない中、世界第二位の経済大国の地位も中国に奪われ、自分達が野党当時「日替りランチのように総理が代わる」とうるさく自民党に言い募つてきた言葉がブーメランのように跳ね返つてこの二年間で三人目の総理。「二度目の正直」どころか「二度あることは三度ある」の諺の如く、今年前半もつかどうかという政治状況は、衆参ねじれ国会の行方もあつて早晩行き詰まり、解散、総選挙で信を問ひ、一日も早くまともな政権を作り直すことが、この危機を脱する唯一の特効薬であると思っています。

今年 は米国をはじめ仏、露、等トップの選挙が目白押しで、勝つためにはどうしても、それぞれの国は「内向き、保護主義」に走つていくのは政権維持の常

道です。

TPP問題で揺れている日本ですが、この問題はとかく言われている農業関係のみだけではなく、戦後から今日まで作り上げてきた日本の産業構造や社会システム、又、我々の意識を大きく後退させていく中身であり、不況、雇用不安に苦しんでいる米国との二国間の文字通りの日・米FTAであり慎重に対応しなければなりません。

むこう十年間で二、七兆円の利益を生むなどという数字が一人歩きしていますが、まだ、交渉もしておらず、中身の枠組みも決まっていない段階の今、どうしてそんなでたらめな数字が出てくるのか理解に苦しみますが、安易に参加を求めている利害関係者の無責任で作爲的な数字としか思えません。

多少物品の関税障壁がとれたからと言っても、現状の我が国

が喫緊に解決すべき課題はなん

といつてもまず、このデフレから脱却すること、そして過去三年間で失った円高差損が約七、八兆円といわれている円高、即ち通貨、為替問題が最も深刻であり、この対策をしない限り企業の空洞化は続き不況、雇用対策は改善されず「TPPは日本にとつては全くメリットがない」という事は明らかであります。

このような中で我々のなすべき浮上策は、まず永年の信頼関係で作り上げてきた台湾との二国間のFTAを早急に提携し、日・台共同でアジア、欧州、米国に対して、抗していく経済協力の枠組み作りしかないと思います。

ひるがえって本年は一九七二年の日中国交正常化に伴い、永年の友好国であった中華民国とは不幸にも国交断絶という結果を招き、四十年という歳月を迎

えました。

時の田中角栄政権が選択した中国は今や世界第二位の経済大国、そして軍備費は二十数年二桁の伸び率でアジア地域や太平洋まで脅威を広げ周辺国に多大な不安を与えています。

また、国内での内政問題で国民が不満を抱き政府批判が出だすたびに、歴史教育を通して「反日」を打ち出し、我が国に圧力をかけるといふパターンの繰り返しは、心から信頼をおける友好国とはとても言えず、「戦略的互惠関係」という意味さえ不明な、政府の言葉遊びで、どれだけ国益を損失しているかを知ることができません。

しかし、唯一の救いはこの四〇年、形の上では外交関係は無くとも両国の先人の皆さんの日台友好に懸ける強い意志と熱意はしっかりと受け継がれ、世界

でも珍しい兄弟のような友好関係を築き上げてきたことは、大変喜ばしい限りであり、この三年間御苦労いただいた多くの皆様に心より感謝と敬意を申し上げます次第です。

今こそ、次の時代に向けて、新しい日台関係を作り上げていくために、私は若い人たちに特に十代、二十代の青少年の皆さんにもっと表舞台に出てきてもらえる、環境作りの為の施策を進めていきたいと思っています。

百年という大きな節目から、次の百年に向かって飛躍、発展していこうと決意も新たな台湾との次なる時代の関係構築の確立の為、皆様と一緒に、本年も頑張つて参りたいと新たに決意をしています。どうか引き続きご指導、ご叱正の程を宜しくお願い申し上げます。して、新年のご挨拶と致します。

故池田偵一郎副会長を偲ぶ

社団法人亜東親善協会監事

莊司 隆一

亜東親善協会池田副会長偲ぶ
会に当り、故池田副会長のご遺徳の一端を述べさせて戴きたいと存じます。

池田さんは戦後代議士をなされた改進黨の高瀬伝さんの秘書として出発され、私が昭和三〇年戦後追放後改進黨から返り咲かれた宮沢胤勇代議士の秘書となつて以来、ご交誼を戴いたというより、師事、兄事させて戴いた三〇年を越える年月を共にさせて戴きました。

池田さんは選挙はもとより、講演案文、原稿の代筆等文学的センスにも勝れ、文学、和歌、俳句もたしなまれ、時々戴くハガキにご自分の俳句が添えられ

ていることもありました。

又、趣味も多彩、運動もゴルフを盛んにされ、新自由クラブ創立者田川誠一郎代議士とも兄弟のような親密さで、田川さんの清貧、真面目な公私にわたる生活を全面的に支援され、会合にも出席され、政治献金も少なからずされたようでした。お互いの暇をみては、ゴルフを誘い合い、田川さんの健康に配慮されておられました。

一度信頼した相手には終生尽くされる方でした。素心会以来、幾多の友人後輩にも配慮を怠らない方でもありました。

私共若手の秘書達も色々ご馳走になったり、ご趣味の釣に同行させて戴いたりしました。

とに角、こんなに皆に振舞われたら大変じゃないかと心配になる位でした。

高瀬さんが代議士をやめ、京浜外貿埠頭公園の理事長に就く

と、その秘書室長を勤められ、その若手を登用して、マンシヨン会社を興されました。その時代マンシヨン業界にも人材を築かれ、もう一つマンシヨン業もはじめられました。業界が停滞しだした頃、何れも手仕舞されたようです。

運輸業界は高瀬さんの出身母体なので、色々人脈があるようでした。その関係で駅利用の会社も創られ、後進に任せて今日に至っております。

池田さんが当亜東親善協会に入会されたのは、設立者の千葉さん、岸さんと考えが似ている高瀬さんが入会された時、恐らく一緒に参加されたと考えられます。高瀬さんと池田さんは一心同体の師弟関係だったことからも推察されます。

そして、設立した方達が亡くなられた後、副会長に推挽され

たのだと思います。そして、それが再建を託された事は言う迄ありません。私はその途上の平成八年池田さんのご指示により亜東親善協会のメンバーを仰せつかり、以来池田さんのお手伝いをして今日に至りました。

池田さんの亜東再建のお志は強烈なものがあり、私もその意をたいしてお手伝いをさせて参りました。

池田さんは常に会合の際や何か金を集める際は目立たないように多い目に出されていました。それは会の会員数の減少を補うものであり、決して自慢されることはありませんでした。

池田副会長の偲ぶ会に当り、池田さんのご意思を体して日台関係の今後の一層の発展にご協力を願ひ、ここに人徳優れた故池田副会長のご冥福をお祈り申上げる次第であります

池田先生追悼のことば

社団法人亜東親善協会副会長

張 建國

私は社団法人亜東親善協会の華僑側の代表と致しまして、池田副会長の御霊に追悼の言葉を申し上げます。

池田先生は、私ども社団法人亜東親善協会の創設者であります千葉三郎先生と深いご親交があられ、協会が設立して間もない当時から、協会の活動にご尽力され、私の亡き父、張和祥や劉天禄先生などとも親しくお付き合いただいたと父からも伺っております。

池田先生は、東アジアの平和のためには、日本と中華民国台湾との友好親善協力関係が重要であるとの硬い信念をお持ちになられ、永年、社団法人亜東親善協会の活動に力を尽くされて参

りました。

特に、一九七二年、日本と中華民国の国交が断絶し、私ども在日華僑が困難にありました時代、私どもを支えて頂き、心よりの感謝を申し上げます。

池田先生は協会の台湾訪問旅行の際には奥様と仲むつまじくご参加されておられました。

最近はお体調が芳しくなく、本年十月の協会の台湾訪問団にはご参加なされませんでした。が、私はおりしも、滞在中の台湾におきまして、先生のご逝去の報に接することとなりました。

池田先生、どうぞ天より、私どもを引き続きご指導いただき、亜東親善協会の更なる発展をお導きください。先生の御霊の安らかなることを祈念し、私の追悼の言葉といたします。

故池田偵一郎副会長を偲ぶ会
開催 平成三年二月八日
明治記念館で開催されました。

随想 太平洋戦争中の想いで

—高雄の二週間—

池田偵一郎

大分古い話で恐れ入るが、私は太平洋戦争の敗色が決定的となっていた昭和十九年六月、二週間ばかり高雄に滞在したことがある。

そのとき私は、スマトラのパレンバン市に展開中の第九飛行師団司令部に赴任のため、三井汽船の有馬山丸に乗っていた。身分は軍属であった。当時は軍隊の中に色々な立場で働く文官がかなり多かった。

軍属に採用されたいきさつは、当時二十三歳の私は体が弱く、徴兵検査では第三乙種だったため軍務に服せなかった。

しかし、四十歳の老兵でも招集される情勢では、赤紙が今日来るか、明日来るか、と落ち着かない毎日であった。

その時期に航空軍司令部で南方要員を募集していた。

自分の運命を賭けるつもりで応募し合格した。第二外国語に馬來語（マレー語）を選択していたのが役に立ったようである。

三日間の教育を受けた後、自宅で待機していると、五月下旬に「品川駅に集合」の公用電報が入り、私物を詰めたトランクと日本刀を持って家をでた。

品川駅には十数人の仲間がいて、桜井という中年の事務官の輸送指揮者に従い、門司港で有馬山丸に乗せられた。この船は一万トン級の貨客船で、甲板にはトラックなどの軍需品、味噌、醤油、漬物の樽などが満載され、船内は汗臭い兵隊が充満し身の置き所がない有様であったが、私どもにはその一隅が与えられた。

乗船して三日目に船は港外に出た。どこで待機していたのか分からないが、十数隻の船が二列に並んで黒煙を吐いていて、その側面を駆逐艦が護衛をしている。まさに「ああ堂々の輸送

船」という感じであった。

船団の時速は十八ノット。九日間で昭南（シンガポール）に到着する予定と聞かされた。

船団は順調に南下を始めたが、その夜突然大きな爆発音が続き、船が揺れて騒然となった。敵潜水艦の攻撃を受け、船は爆雷を投じながら全速で逃げているとのことであった。

私は九州近海まで敵潜水艦が出没していることを知り、大変なショックを受けた。この恐怖は翌日の夜もあった。船団の被害はどの程度であったか知る由もなかったが、幸いにして有馬山丸は無事であった。

六月二日の真夜中、有馬山丸に魚雷が命中し、恐怖のどん底に落とされた。私どもは爆雷には毎夜のことなので少々馴れていたが、この夜の爆雷投下は今までになく激しかったので、みんな起きだし、どうなることかと息を殺していた。突然「パツキーン」と凄まじい金属音と同

時に、激しい衝撃があり船内は真つ暗になった。魚雷が命中したと直感した船内は、怒号と悲鳴で大混乱を呈した。

私は最悪の事態を覚悟したが、手探りで服をみに着け、這うようにして甲板に出た。甲板は阿鼻叫喚、軍隊の秩序などは滅茶苦茶で、人間の本性むき出しの渦になっていた。

船はやや左に傾いたが、星空に猛烈な勢いで黒煙を吐き、デイズルエンジンが規則正しく大きな音を立てているので、どうやら沈没だけは免れたようだとおもった。しかし、魚雷攻撃が続くであろうとの不安で一杯であった。

午前四時頃状況は落ち着いた。明るくなりかけた海上には他の船影は全く見られず、有馬山丸だけが取り残された。

間もなく船内放送で「本船は午前二時五十二分敵潜水艦の攻撃を受け、先端の一番船艙に魚雷が命中したが、航行には支障

がない。応急修理のため台湾の高雄港に向かっている。本海戦をバシー海峡日焼島沖海戦と呼称す」と簡単な発表があった。

先端に魚雷が命中し、パツクリと大きな穴が空いたままの有馬山丸は、極端に速度が落ち十二時間後に漸く高雄港に入った。まさに九死に一生を得た思い出であった。

ここで船は修理に二週間ほど要した。その間大部分の兵員は船内での起居を強いられたが、私どもは市内の青葉小学校に収容され、しばらくの間解放された気分になった。

国防婦人会の人たちが慰問にきて、その頃は内地で見られなくなった純綿の手拭を配ってくれた。夜になると子供が監視の目を盗んで、バナナやマンゴーを売りにくる。ビーフンや菓子、ラムネ、サイダーもある。内地で乏乏生活していた身にとつては、まるで別世界のようにであった。

あるとき引率されて高雄神社

に参拝した。町は静かで住民は平和に生活している。内地を出発するときにもらった餞別がそのままあったので、何とかして表に出たいと考えたり、うまく脱走してこの地に潜伏することはできないものかと真剣に考えたが、憲兵の見張りがきびしく不可能であった。

かくするうちに船の応急修理が済み、私どもは船に戻され、護衛なしで敵潜水艦におびえながら、マニラ、ボルネオのミリ、クチンを経由し、六月末に漸く昭南（シンガポール）に到着し、暫く便待ちしてから七月初旬、任地のパレンバン市に辿り着いた。サイパンが玉砕した頃であった。

往時はすべて茫々であるが、太平洋戦争中の高雄での二週間は、半世紀以上も過ぎた今でもなぜか鮮明である。

【平成十五年（季刊亜東）

夏季号より】

中華民國留日東京同學會

国会議員懇談会・国会見学会

開催日 平成二三年二月八日

集合場所 参議院議員会館一階

懇談会場 参議院議員会館

地下一階一〇九号室

十一時半より

出席者

○国会議員

大江康弘先生・参議院議員

小泉進次郎先生・衆議院議員

小林正枝先生・衆議院議員

玉城デニー先生・衆議院議員

並木正芳先生・前衆議院議員

岩城光英参議院議員（代理）

○来賓

財団法人交流協会

亀井啓次・総務部長

台北駐日経済文化代表處

林默章・文化組副組長

王瑞豊・業務組課長

○台湾新聞社

（議員会館会議室での記念撮影）



○中華民國留日東京同學會

台湾留学生 五十名

○社団法人亜東親善協会

張 碧華・副会長

張 建國・副会長

崎谷秀彦・専務理事

程 金奎・監事

南部晴彦・事務局長

渡瀬佳奈子（松下新平事務所）

岡沢敬子（大江康弘事務所）

日下貴夫（大江康弘事務所）

弊協会・張建國副会長の司会

で、昼食会を兼ねての、懇談会

が開催されました。

冒頭、ご出席戴きました国会

議員をご紹介し、先生方よりご

挨拶を戴きました。

事前に提出された質問事項を

中心に質疑応答がありました

・日本に一番欠けているものは？

・議員は普段何をしているのか

・天皇制はどのような存在か

・将来政治に関することをした

い、重要な事は何ですか？

・日台関係の今後はどうなるか

・日本品の海外販売の法整備は

○消費税について、台湾ではコ

ンビニ至るまで、領収書（収銀

機統一發票）が発給され、アル

ファベット二文字・数字八桁の

通し番号で二カ月毎に抽選が行

われ、一等壹千萬元。小泉先生

が、学生に当選した人との問い

に、五〇名中、四七名が挙手。

（留学生が抽選券を提示紹介）



議員室を表敬訪問、参議院衛士

の案内で、国会議事堂内を見学。

国会正面入り口にて、国会議事

堂を背景に記念撮影後、解散。

中華民國外交資料特別展

「百年傳承 走出活路」

二〇一一年は中華民國建國百周年にあたることから、外交部は收藏豊富な文獻を整理し、國立故宮博物院の協力のもとに、二〇一一年八月九日から二〇一二年二月六日まで、「百年の傳承活路への歩み出し」を企画されています。

会場は、國立故宮博物院正館・陳列室一〇三、一〇四号室。

中華民國外交部は、開国以来外交伝統を受継ぎ、一八六一年に總理各國事務衙門が成立し以来の大量の外交文書を、保存しています。三千件余りの条約・協定及び章程、六百五十幅の各類边疆圖、十八万巻を越える文獻が含まれ、百五十年に及び累積されてきた貴重な外交資料は、世界に誇れるものであり、中華民國が外交平等と主權獨立を勝ち取って来た歴史過程が記録されています。

この特別展の五大テーマは、
一、「歴史の教訓」（一八四二年の南京条約、北京議定書等）

二、「平等への努力」（一九二一年締結された中独条約等）

三、「台湾の復興」（下関条約、カイロ宣言、ポツダム宣言、日華平和条約の正本等）

四、「活路への歩み出し」

（中華民國の国連代表權の維持に寄与した・国連總會五〇五号決議、米華相互防衛条約）
五、「外交の傳承」

（清朝時代の總理各國事務衙門の成立から、中華民國孫文臨時大總統より初代首任外交部・王寵惠總長への委任状・中華民國元年正月五日付。

現職の楊進添外交部長への馬英九總統・吳敦義行政院院長よりの任命令等）に分けられ八十八件の条約・地図と重要文獻が展示されている。このほか、「中華民國外交部保存の清朝条約一覽表」「中華民國歷代外交部長官職名年表」「中華民國国民に

対する査証免除或は、到着査証發給の國家と地域一覽表」が製作され、外交写真を併せて展示されています。

この優れた傳承と豊富な資料を受継ぐ中華民國が中華文明の引率者であり、國際社会より尊敬される國家であると思います。

○下関条約（一般には馬関条約）

正式名称は【日清講和条約】

一八九五年（明治二八年四月十七日、山口県赤間関市（現下関市）春帆楼で締結された。



調印は、大日本帝國全權辦理大臣・伊藤博文内閣總理大臣。大日本帝國全權辦理大臣・陸奥宗光外務大臣。

大清帝國欽差頭等全權大臣・李鴻章北洋通商大臣直隸總督。大清帝國欽差全權大臣・李經方二品頂戴前出使大臣。

大日本帝國大皇帝陛下、大清帝國大皇帝陛下が批准し、明治二八年五月八日・光緒二二年四月一四日に交換された。



批准本表紙は、濃紺地の中央に菊の御紋章。四隅には五七の桐が金箔押しされています。

○中華民國與日本國間和平條約（日華平和条約）一九五二年

四月二八日台北で、日本側・河田烈、中華民國側・葉公長とで調印、言語は中文本、日文本、英文本で作成された。

條約議定書の解釈齟齬ある時は英文本が優先されるとのことでありました。

謹 賀 新 年 平成二十四年

台北駐日經濟文化代表處 代 表 馮 寄台	財団法人交流協會 理 事 長 畠 中 篤	財団法人台灣協會 會 長 園 部 逸夫 理 事 長 齋 藤 毅	日華親善協會全國連合會 會 長 平 沼 赳夫 東京都千代田区永田町一・十一・十二 相互永田ビル二階 電話〇三(三二五〇)五六六一
------------------------------------	------------------------------------	--	---

T O K I S

東 京 電 氣 商 会

代 表 張 碧 華

東京都千代田区外神田3-7-7
電 話 03(3257)0032

謹 賀 新 年 平成二十四年

参議院議員 災害対策特別委員会委員長 参議院議員 松下 新平 東京都千代田区永田町二・一・一 参議院議員会館八二四号室 電話〇三・六五五〇・〇八二四	参議院議員 谷川 秀善 東京都千代田区永田町二・一・一 参議院議員会館四二二号室 電話〇三・六五五〇・〇四二二	衆議院議員 金子 恭之 やすし 東京都千代田区永田町二・一・二 衆議院第一議員会館四二〇号室 電話〇三・二五〇八・七四一〇	参議院議員 社団法人亜東親善協会副会長 大江 康弘 東京都千代田区永田町二・一・一 参議院議員会館五〇九号室 電話〇三・六五五〇・〇五〇九
元衆議院議員 社団法人亜東親善協会顧問 臼井 日出男 千葉県市川区検見川町三・三・五・一七 電話〇四三・二七二・四一七五	元参議院議員 社団法人亜東親善協会顧問 秋元 司 東京都千代田区麹町四・五・一〇 麹町アネックス二〇一 電話〇三・五二二二・四八〇〇	元衆議院議員 社団法人亜東親善協会顧問 愛知 和男 〒一四三・〇〇三三 東京都大田区山王二・一九・三	参議院議員 山本 順三 東京都千代田区永田町二・一・一 参議院議員会館二〇一九号室 電話〇三・六五五〇・一〇一九
台北駐日経済文化代表處 横浜文處 處長 李 明宗 横浜市中区日本大通り六〇 朝日ビル二階 電話〇四五・六四二・七七三七	社団法人アフリカ開発協会 会長 矢野 哲朗 東京都千代田区新尾井町四・一 新尾井町ビル二階 電話〇四・二九一四・八〇五〇 FAX〇四・二九一四・八二五一	前内閣府大臣政務官 元環境大臣政務官 前衆議院議員 並木 正芳 埼玉県所沢市北有楽町二・二・二 電話〇四・二九一四・八〇五〇 FAX〇四・二九一四・八二五一	元衆議院議員 社団法人亜東親善協会顧問 橘 康太郎 東京都千代田区丸の内二・二・一 岸本ビル二四A号室 電話〇三・三二二五・二二三八

謹 賀 新 年 平成二十四年

台北駐大阪經濟文化辦事處 處 長 黃 諸侯 大阪市西区土佐堀一・四・八 日栄ビル四階 電話〇六・六六四四三〇 八四八一	社團法人垂東親善協会元顧問 紀 興 東 〒一五六・〇〇六一 目黒区中目黒四・五・二 クレセント中目黒二一〇五号 電話〇二・二七九四 五五一	日本中華聯合總會 会 長 毛利 友次 〒一六七・〇〇六一 千葉市緑区土気町一六三・一 電話〇四三・二五四 七八二
台北駐大阪經濟文化辦事處 福岡分處 處 長 曾 念祖 福岡市中央区桜坂二・二・四二 電話〇九二・七三二四 二八二〇	中華 航 空 日本支社長 鍾 明志 東京都七代区内幸町一・二・一 日土地内幸町ビル八階 電話〇三・六三七八 八八八八	日本華商總會 會 長 朱 文元 理事 林 錦漫 東京都港区六本木七・五・一〇 電話〇二・四四〇八 四四六八
台北駐日經濟文化代表處 那霸分處 處 長 粘 信士 那霸市久茂地二・一五・九 アルデビル那霸六階 電話〇九八・八六二二 七〇〇八	 台灣觀光協會東京事務所 所 長 江 明清 東京都港区西新橋一・五・八 川手ビル二階 電話〇三・三三〇二 三五九一	アジア問題懇話会 大陸問題研究協会 会 長 高野 邦彦 東京都港二田五・八・十一 電話〇三・二四四四 五七四五
台北駐日經濟文化代表處 札幌分處 處 長 徐 瑞湖 札幌市中央区北四条西四丁目一番地 伊藤ビル五階 電話〇一一・二二二二 一九二〇	チャイナエアラインズグループ 機ダイナステイ ホリデー 代表取締役社長 國廣 傑 東京都中央区銀座一・九・七 陽栄銀座第一ビル五階 電話〇三・三五五四 〇八八〇	後藤泌尿器科皮膚科医院 院 長 後藤 康文 岩手県宮古市大通一・三・一四 電話〇一九三・六六二 三六三〇

謹 賀 新 年 平成二十四年

株式会社昭和綜合サービス 財団法人台湾協会会長 故松岡清・三男 代表取締役 松岡 晋 さいたま市浦和区高砂三・一四・一四 電話〇四八（八三）八二〇〇	有限会社沖山興業 代表取締役 沖山 建夫 東京都八丈島八丈町三根一八一・五 電話〇四九九六（一）〇〇〇一	社団法人亜東親善協会 会長 玉澤徳一郎	社団法人亜東親善協会 副会長 張 建國
社団法人亜東親善協会 専務理事 崎谷 秀彦	社団法人亜東親善協会 理事 呉 淑娥	㈱マリノロジスティックス 代表取締役社長 小松 省二 東京都港区赤坂二・八・十四 丸玉第二ビル七階 電話〇三（六四）五〇 五〇八〇 FAX〇三（六四）二四八四	社団法人亜東親善協会 理事 東 達夫 電話〇三（四六）二五五
あさみ野ローテニスクラブ 代表 益山 茂 横浜市青葉区あさみ野一・一九・二 電話〇四五（九〇）九〇二二	有限会社台湾新聞社 社主 錢 妙玲 〒一七一・〇〇二二 東京都豊島区西池袋四・一九・四 電話〇三（五九）一七 〇〇四四五 FAX〇三（五九）一七 〇六八六	株式会社自由新聞社 社長 黄 清林 東京都港区三田五・一八・二二 電話〇三（四四）一五 一五 六	日華仏教文化交流協会 東京都台東区寿一・一九・一 電話〇三（三八）四二 一七 二

社団法人亜東親善協会顧問

(五十音順・敬称略)

若林 正俊	山本 順三	山内 俊夫	村田 吉隆	松本 洋平	船田 元	林 幹雄	西村 真悟	中井 洽	田名部 匡省	高市 早苗	山東 昭子	坂本 剛二	岸 信夫	金子 恭之	奥野 信亮	遠藤 利明	魚住 裕一郎	石破 茂	麻生 太郎	安倍 晋三
鷺尾 英一郎	吉川 貴盛	山崎 正昭	森 喜朗	水野 賢一	古屋 圭司	平沢 勝栄	萩生 田光一	長島 昭久	谷川 秀善	高木 美智代	島尻 安伊子	笹川 堯	北村 茂男	亀井 久興	奥村 展三	大江 康弘	臼井 日出男	泉 信也	新井 悦二	愛知 和男
渡辺 博道	吉田 六左門	山根 隆治	矢野 哲朗	宮路 和明	前原 誠司	平田 健二	鳩山 邦夫	長勢 甚遠	谷川 弥一	高鳥 修一	下地 幹郎	佐藤 昭郎	小池 百合子	亀岡 偉民	嘉数 知賢	大野 松茂	内山 晃	岩城 光英	井上 信治	赤池 誠章
渡部 篤	吉村 剛太郎	山本 明彦	谷津 義男	村上 誠一郎	松下 新平	平沼 赳夫	浜四 津敏子	中村 喜四郎	鶴保 庸介	棚橋 泰文	世耕 弘成	佐藤 剛男	小島 敏男	神取 忍	金子 善次郎	大野 功統	江崎 洋一郎	岩屋 毅	伊藤 公介	秋元 司

社団法人亜東親善協会顧問 (順不同・敬称略)

馮 林	寄 錦	台 清	中田 宏	宏 四郎	畠中 黄	篤 林	齋藤 林	毅 瑞	毛 友	次 孝則
楊 作	羅王 明珠	李 海	謝 文	政 橘	施 梨	鵬 康太郎	鄭 尊	李 純	京 則	

社団法人亜東親善協会役員名簿

[会 長]	玉澤徳一郎						
[副 会 長]	張 建 國	張 碧 華	大江 康弘				
[専務理事]	崎谷 秀彦						
[事務局長]	南部 晴彦						
[総務担当]	仲谷 俊郎	[組織担当]	益山 茂	[財務担当]	赤松 則宏		
[事業担当]	小松 省二	[国会担当]	橋本 靖男				
[理 事]	千葉 健司	東 達夫	新井 秀子	李ハロルド	松永理恵子		
	多 忠和	三浦 信行	並木 正芳	伊野 雅晴			
[監 事]	莊司 隆一	藤山 雅康					
[支 部 長]							

[青森県]大見光男 [岩手県]高橋義麿 [茨城県]石川多門 [広島県]月村俊雄

お知らせ

【新春互礼会のご案内】

恒例の新春互礼会は平成二十四年二月六日(月)午後六時
ホテル・ニューオータニ本館・翠鳳の間で開催致します。

台北駐日経済文化代表處代表 馮寄台閣下、衆参国會議員も
多数ご出席予定されております。(会費一万円)

【訪台団】

昨年は、辛亥革命百周年で日本でも様々な催しが開催され
ました。本年は、一九一二年一月一日中華民国が樹立され、
百周年に当たります。五月二〇日には、第一三代総統の就任式
が予定されております。協会では五月一八日(金曜日)より
二一日(月曜日)三泊四日の訪台団を企画する予定です。

【意見、参加希望があれば事務局まで連絡お待ちしております
手島泰六・張炳煌友好書作展】

一月一三日(日曜日)國立國父紀念館主催、弊協会協賛に
よる書作展は、許水徳・許世楷両元大使等出席の中、開幕式
が行われました。馬英九總統の祝辞も披露紹介されました。

編集後記 季刊「亜東」平成二十四年新春号

昨年の三月十一日、東日本大地震で多くの方々が災害にあわれ、
心よりお見舞い申し上げます。新年賀詞を述べる事、躊躇します。
台湾より二百億円を越える義捐金には、勇気づけられました。
一日も早い復興を願っています。昨年は頑張りました。今年は
無理をしないで、我慢しないで、頑張らなくてもと思います。
本年こそ、皆様にとって良い年でありますように祈念致します。

○協会の活性化を目指し、会員の拡充を図っています。

会員各位のご紹介により多くのご参加を期待致しております。

【年会費】①法人五万円以上。②賛助会員三万円。③個人一万円。

表題【亜東】は中華民國總統馬英九閣下の御揮毫です

季刊	亜東 (アジアの架け橋) 平成24年 新春号 (No.40)
発行日	: 平成24年1月15日
発行所	: 社団法人亜東親善協会
編集人	: 南部晴彦
所在地	: 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館4階 Tel:03-3261-6405 Fax:03-3556-5770
H P	: http://homepage3.nifty.com/atousinzen
印刷	: ヨシダ印刷株式会社



私たちは、
「旅を咲かせる、花の翼」です。



CHINA AIRLINES

